

朝日 俳壇 歌壇



日高理恵子 (ノイバラⅢ)

佐佐木幸綱選

鱷雲朱に染まりて若狭湾上空二面祭りの如し
 (舞鶴市) 吉富 憲治

秋空にガーゼのような雲ながれ水鳥気分でカ
 ナーにうかがふ
 (大津市) 深堀 英子

いくどとなく「チャンピオン」歌心耐へてき
 た営業成績不振な時を (匝漣市) 椎名 昭雄

校長の願いで「いい日旅立ち」を歌いし日あ
 り母ら胸張りの (飯田市) 草田 礼子

コスモスの畑に向かふ十台の車椅子にはそれ
 ぞれの秋 (熊谷市) 松葉 哲也

田で餌を啄む五羽の朱鷺飛びぬ紅の羽は夕陽
 に溶ける (熊本市) 田川 清

熊避けの鈴を小さく振りながら新聞配達去り
 てゆきたり (岩手県) 初森 テル

ネスミ捕り六個並べて出荷米四十袋を守って
 二十日 (安中市) 入沢 正夫

空爆を逃れるガザの幼子のTシャツの胸には
 キティちゃん (藤沢市) 朝広 彰夫

家中の窓に放水して流す網戸の汚れ夏どの別
 れ (神戸市) 田崎 澄子

【評】第一首、若狭湾上空が真っ赤に染まる壮大な光景。大きな景色を大きくうたって、うまい。第二首、カーに乗っている場面。「水鳥気分」が楽しい。第三、四首、谷村新司追悼の作が多くあった中の二首。多くの人に愛された歌だった。

高野公彦選

あちこちの壁に当たって向き変えるルンバの
 ごとき総理の施策 (観音寺市) 篠原 俊則

葬り終へ喪服の袖にふるさとの金木犀の匂ひ
 残れり (箕面市) 大野美恵子

気付かれぬ長き時間を思いけり金木犀の咲け
 ば馨れば (我孫子市) 松村 幸一

高級なナイキのシューズ遂に買った廃線ハイク
 に心逸らせ (安芸高田市) 安芸 深志

硫黄島は東京都 本を読み知っているまも還ら
 ぬ兵士一万人 (町田市) 山田 道子

美しき民謡の国ロシアの地いただきにせせつ
 一子にがいる (東京都) 西垣 郁子

青天に飛行機雲がクロスしてガザでは今日も
 犠牲者数多 (高崎市) 小島 文

四字熟語「喜怒哀楽」になき「憎」が争いも
 たらした「憎」を生む (沼津市) 山本 昌代

アンケート回答欄の性別に「男性」「女性」
 に「その他」加わる (市川市) 末長 正義

褒められし南部鉄器のすき焼き鍋おりおり使
 い五十年過ぐ (小郡市) 嘉村美保子

【評】一首目、比喩が面白くて的確。二首目、いい香りだが、今回は悲しみを帯びた香り。三首目、開花時の芳香だけを賞賛される金木犀にちょっと同情する気持ち。四首目、廃線をハイキングする楽しみのために歩きやすい高級な靴を購入。

永田和宏選

おきなのは判決記事にたしかめる疲労のふか
 き知事のおかげは (北九州市) 嶋津 裕子

マヨネーズに楊枝を立てて驚いた辺野古の杭
 も同じだろうか (長野市) 関 龍夫

風呂なんて入れる訳がないだらな飲む水さえ
 もままならぬガザ (五所川原市) 戸沢大二郎

200万人が住むガザ地区にトラック20台の
 物資が届く (寝屋川市) 今西 富幸

壁薄き下宿ラジオを耳に当てる一人アリスを聴
 いていた夜 (観音寺市) 篠原 俊則

蒼白き頬のままかたわれに問い星となりしか
 谷村新司 (仙台市) 沼沢 修

真実を語る人が世を去った後に始まる「聞
 き取り調査」 (東京都) 上田 結香

専攻は素数論なる娘婿阪神ファンでラーメン
 が好き (東京都) 鹿野 治男

終活に孫に病に花が咲き介護に触れぬ女子会
 の機微 (札幌市) 田巻 成男

手を伸ばしフランスステモしたあの頃の私の、
 この国のすがたはいずれ (藤沢市) 谷平 弘道

【評】冒頭二首、世界のニュースに目を奪われがちだが、沖縄問題からも目を逸らさぬように心がけたい。3、4首目、難しいが、ガザ地区の窮状をどのように自分のこととして詠えるか。5、6首目、谷村新司の死も、自己の体験と重ねて。

馬場あき子選

ホタテガイの解剖をする白衣の子海の匂いの
 生物教室 (奈良市) 山添 聖子

干涸びた象の赤ちゃん横たわる地球の異変な
 ど知らぬごと (神戸市) 植村 佳子

啄木の悲しみ照らす鼻には新司の歌が流れて
 おらむ (柏市) 菅谷 修

この子らが泣くためにだけに生れしとは思いた
 くなきガザの映像 (観音寺市) 篠原 俊則

子狐は樺太鱈と格闘す鱈を狩らねば冬は越さ
 れぬ (津市) 中山 道治

布団干した夜のうちは犬のごと太陽の匂ひ
 クンクン嗅ぎぬ (さいたま市) 秋間由美子

福島の鱈が値引きの棚にある三割引きのシー
 ル貼られて (長野市) 関 龍夫

高校を終り六十余年経ちB組だった女とお茶
 飲む (新潟県) 涌井 武徳

栄養のある牧草を食べ尽くす牛より鹿の教多
 き牧 (前橋市) 萩原 葉月

黄落の中からぬっと牛の顔飛び出してくる秋
 夕焼けに (厚木市) 北村 純一

【評】第一首のホタテ貝の解剖というのは珍しいが、大きな貝柱を中心に目や触手などもあふ。海の匂いが広がる教室も面白い。第二首はアフリカなどで限にする渇水期の異変。第三首は「鼻」の歌詞に啄木の歌が引かれて。

短歌時評 「推し」を詠む

小島 なお

オタクは必ず短歌がうまくなりませす。
 必ずです。私が保証します。
 榊原絃著「推し短歌入門」(左右社)の帯
 に力強くそう書かれている。推しへの気
 持ちはフックに短歌を作ってみよう」と
 いう今までのないコンセプトの短歌入門
 書である。「推し」は、漫画・ゲームのキ
 ャラクター、アイドルなどに用いられ、
 強い支持や憧れの気持ちが伴う表現。
 なせオタクと短歌の相性がいいのか。
 その理由について、「推し」の発する()

一字や一単語で大騒ぎすることができ、
 「推し」が笑ったり、あるいは黙り込ん
 だりするだけで心が震える「感受性を備
 えているからだ」と本書は説明する。
 「……Aもそんなこと言っただけ」と
 という台詞をBが言ったとき、「も」の一
 文字にはA以外の誰かの存在が意識され
 てくる。「他に誰を想像しているの?」
 と場面の背後の物語を敏感に想像する力
 は、てにをはを重要視する短歌とたしか
 に深く通じている。

短歌入門書としての基礎もしっかり押
 させてある。「推し短歌三原則」の一項
 目は「原作を知らない人が読んでも短歌
 としてよいものを作る」。

祝福を 花野にいろということは去る
 ときすらも花を踏むこと 榊原絃
 漫画「ゴールデンカムイ」の尾形百之
 助のことを詠んだ歌だという。けれど、
 漫画を知らなくても、祝福のあかるさ
 と、そのために花の命を犠牲にすること
 の暗さの矛盾を味わうことができる。
 自分の「好き」をもっと丁寧に、自分
 の言葉で慈しみたい多くの人のための一
 冊だ。(歌人)

風信

小澤實句集「澤」 第4句集。表題は、著
 者が主宰する俳誌名に拠る。「さざなみにさ
 ざなみあらた花待てる」(翁に問ふブルトニ
 ウムは花なるやと)(角川書店・2970円)
 堀本裕樹著「才人と俳人」副題は「俳句
 交換句ッ記」。俳優の小林聡美さんと芸人で
 作家の又吉直樹さんから28人と著者による、俳
 句とエッセーの往復書簡。(集英社・1650円)

☆印は共選作。掲載作は記事への引用や、電子メディアやSNSへの掲載・収録をすることがあります。投稿は無地のほうがき1枚に1作品、未発表の自作のみ。作品の横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。二重投稿は不可。選者が添削する場合があります。